【樹木の部屋】

オウシュウトウヒ（マツ科トウヒ属　Picea abies（L.）　H.Karst.）

和名：ドイツトウヒ　別名：ドイツトウヒ、ヨーロッパトウヒ、ドイツマツ

英名：Norway Spruce

マツ目　常緑針葉高木　　原産地：ヨーロッパ

花言葉：　　花の色：

← 写真-１　オウシュウトウヒの樹形

撮影日：2013 年 07 月 14 日
撮影場所：ブライエス湖(北イタリア)にて
撮影者：M　さん

→ 写真-２　オウシュウトウヒの枝姿

撮影日：2013 年 07 月 14 日
撮影場所：ブライエス湖
(北イタリア)にて
撮影者：M　さん

← 写真-３　オウシュウトウヒの枝葉

撮影日：2013 年 07 月 14 日
撮影場所：ブライエス湖
(北イタリア)にて
撮影者：M　さん

→ 写真-４　オウシュウトウヒの葉

撮影日：2013 年 07 月 14 日
撮影場所：ブライエス湖
(北イタリア)にて
撮影者：M　さん

北イタリア・ドロミテ渓谷の、ほぼ北東の端にある美しい湖の湖畔で見つけました。とは言っても、ヨーロッパではごく普通に見られる樹木。ジックリと見たのは、これが初めて。車窓からの眺めがほ

とんどでした。一見、モミに似ている樹木です。

アルプスなどの山岳地帯や、スカンジナビア半島の北方針葉樹林の主要樹種。花期は５月頃。公園や庭園によく植えられている。モミの木などとともにクリスマスツリーとしてもよく使われています。本来は高さ 50m、直径も 2m に達することがある高木。若木のうちはモミの木と区別が困難ですが、長さが 10cm を超える独特の球果とやや固めの葉で区別が出来るそうです。また、モミの木は深根性。オウシュウトウヒは浅根性。成長が早く、日当たりを好み、乾燥を嫌うそうです。

名前のとおりドイツでよく見られる木で、有名なシュヴァルツヴァルト（黒い森）の多くの木がオウシュウトウヒ。10m を超える高さになると小枝が下側に垂れ下がるようになり、独特の外観となる。生育は容易ですが、酸性雨や排気ガスには弱く、公害の深刻な地域では枯死することがあるそうです。寒冷への耐性があり、土壌は選ばず、防風林などにも適しているそうですが、根張りが強くない為に強風で倒れてしまうことがあるそうです。また庭木としては大きくなりすぎる為に不向きだそうです。

国内で日常的に見られるのは北海道と東北地方に限られているそうです。北海道では現役の「鉄道防雪林」として機能しているそうです。また、かつては一般造林用樹種として広く植栽されたこともあり、１００年を超える高齢の造林地を見ることもできる。さらに、札幌市内では緑化樹として現在でも活用されているそうです。

← 写真-４　オウシュウトウヒの球果

撮影日：2015 年 7 月 14 日
撮影場所：シニゲ・プラッテ高山植物園
（スイス）にて
撮影者：Ｍ　さん